

◆◆◆着衣泳◆◆◆

■右の写真は昨日5年生が「着衣泳」をしているようです。子どもたちは着衣のまま水に入って動いてみたり、体を浮かせてみたり、ペットボトルをおなかの上にのせてゆっくり泳いだり。普段着で水に入ると服が水を吸って重くなります。なので体が思うように動かない。あせってバタバタすればするほど沈んでいく。そのことを体感し、「もしも」の時の対応の仕方を学ぶ学習です。



■大事なことは、

あわてずに、浮いて、待つ。

水を吸っても衣服は浮きやすい。なので、力を抜くとけっこう浮くものです。無駄に動かず、上向きに寝た姿勢でできるだけ長く浮いておく。助ける場合は、

声をかけ、浮くものを投げて、助けを呼ぶ。

今回はペットボトルでやってみましたが、他にもカバンやランドセル、傘や空気を入れたレジ袋…。飛び込んで助けようとしなくていいことです。

■あつてはならない「もしも」です。それでもあやまって川や海に落ちてしまったとき。そんな人を目にしたとき。救える命が一人でも多く救えるよう。あと一週間後には夏休みです。